ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

ウトナイ湖通信

No.243
2024年8月号

汗ばむ陽気のウトナイ湖も、湖岸に出れば心地よい風が吹いてきます。湖岸近くではハッカやツリフネソウ、エゾミソハギといった湿地を好む植物の花々が見られ、トンボやチョウなどの昆虫も飛び交っています。

ウトナイ湖は、周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

8月のイベント情報

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

8月11日(日) 10:30～11:30
レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。
※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。
●定員:10名程度
●対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
●申込:不要。直接当センターへ。





ボランティア体験講座は、次回は9月29日(日)に開催予定です。詳細は、広報とまこまい 9 月号およびウトナイ湖通信 9 月号に掲載します。

※当センターのボランティア登録は、本講座を受講いただき、登録を希望された方のみとなります。

市民ギャラリー

環境省アクティブ・レンジャー写真展「北の自然の舞台裏」2023-2024

会期:8月1日(木)～9月1日(日) 展示: 環境省
内容:環境省のアクティブ・レンジャーの舞台裏の写真展です。北海道の豊かな自然を、写真を通して見ることができます。

令和6年度 野鳥絵画展

会期:8月2日(金)～8月23日(金)
展示:北海道
内容:道内の児童や生徒の皆さんが描いた素敵な野鳥の絵画が並びます。
※2階の東側(窓際)および1階展示室の東側(窓際)に展示します。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231
〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり
開館時間:午前 9 時～午後 5 時 / 入館無料
休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 検索



～ ウトナイ湖 ～
・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介いたします。

シメ



診察時の様子



ケージ内の様子

原因：高所からの落下疑い

7月 12日

市内にある住宅の窓ガラスに衝突し、飛べずにいたところを発見され、当センターへ搬送される。
明らかな外傷は認めなかったが、呼吸が荒く、時折開口呼吸を確認。しばらく安静状態にし、経過観察を行なった。２時間ほどすると容体は安定し、ケージ内を飛べるようになる。
さらに２時間ほど経過観察後、リリースとなる。

リリース

シメ　（スズメ目 アトリ科 ）

日本では北海道の平地から低山で繁殖し、秋には南に渡り、本州以南では冬鳥として訪れます。本個体は幼鳥の羽毛をまとっているため、北海道でふ化し、育ったものと思われます。食物はおもに植物質で、ヤドリギの実や松の種、イネ科の種子などを食べます。

トピックス



野生動物に学ぶ救護セミナー
「ひろげようシマフクロウの環その一歩先へ」

シマフクロウ環境研究会代表の竹中健氏を講師にお招きし6月にセミナーを開催しました。剥製や巣箱などを見ていただき、シマフクロウの現状と、長期的な調査や研究を続けていくことが環境保護には大切だというお話に、参加者も熱心に耳を傾けていました。



「ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！祭り」
ミニ出前授業＆当センター紹介パネル展示

JFE リサイクルプラザ苫小牧で開催されたイベントに、当センターで小学校向けに行なっている出前授業のミニ版を実施してきました。自然復帰ができず終生飼養となったフクロウなどを紹介し、救護活動について多くの市民の方に知っていただきました。











ボランティアコーナー

当センターのボランティア活動に積極的に参加され、ご自身でも自然観察を楽しまれている赤間さんにインタビューしました

【体験から学ぶ】赤間　優歩さん

当センターのボランティアに登録をしようと思ったきっかけを教えてください。

自然が溢れる北海道に移住してきたので、何か自然のことを体験的に学びたいと思っていたところ、ボランティアセミナーの開催を見て応募しました。

当センターのボランティア活動に参加して、良かったことはありますか？

まだ数回しかイベント等参加できていませんが、専門的な知識を持つ職員さんや、博識なボランティアさんから色々教えてもらえるところです。

野鳥や自然観察の楽しさや魅力があれば教えてください。

自然の中に行けば、生き物に出会うことができて、その出会いも毎回同じでは無く、そのたびに新しい発見があることが私にとっての自然の魅力です。



自然情報収集調査で
記録用紙に記入する赤間さん

ウトナイ湖お楽しみコーナー

【ウトナイ湖・クイズ】

ミサゴは冬以外の季節にウトナイ湖で観察することができる鳥です。左右の翼を広げた時の長さ（翼開長）は 157～174cm にもなります。水の上で停空飛行をして、足から水に飛び込んで魚を捕らえて食べます。迫力ある狩りを見せてくれるミサゴは、世界の色々な場所で見ることができますが、生息していない大陸が１つだけあります。それはどこでしょう？

※答えは最後のページにあります。

A. 南極大陸　B. 南米大陸　C. オーストラリア大陸



公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！

Instagram　facebook　X(旧 Twitter)








レンジャーのおすすめ自然情報



【ツリフネソウ】
舟形の花がぶら下がるように咲きます。薄暗い森の中の観察路の脇などで見ることができます。



【ミゾソバ】
下部は白色、上部は紅色の小さな花が咲きます。ウトナイ湖では木道の脇の湿った場所でよく見かけます。



【キンミズヒキ】
黄色の花を密に多数咲かせます。草地や木道脇などウトナイ湖の観察路で広く見ることができます。



【ゲンノショウコ】
古くから下痢止めとして用いられてきました。当センター周辺の草地などで咲いています。

鳥のさえずりがすっかり落ち着いた8月のウトナイ湖では、盛夏から晩夏に咲く花々が目を楽しませてくれます。左に紹介したもの以外にも黄色いトモエソウやクサレダマなどの花が目を引きます。

そのような花に誘われてやってくる昆虫たちを観察するのもまた夏のウトナイ湖の楽しみのひとつです。

あっという間に過ぎていく夏を楽しみましょう！



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから

Instagram　facebook　X(旧 Twitter)



クイズの答え：正解は【A. 南極大陸】でした。ただし正確ではオーストラリアのミサゴは亜種ではなく別種であるという見方が支持されています。